

最新旧型機クロックアップ・サイリックス 第二十二回公演

シヤザイカイケン

S
D

作・演出／川原 武浩

C A S T

副社長 上瀧昭吾

常務 立石義江

部長 池田景

先生 石村英美子 (henhouse)

記者P

記者T 白川宏治 (ユニットれんげ)

記者R 大谷豪

記者N 長沼里佳

男 松本征也

女 大石華愛 (西南学院大学演劇部)

(声) 長岡暢陵

S T A F F

照明 出田浩志(Stage Lighting 大黒屋)

音響 青井美貴

装置 上瀧昭吾

宣伝美術 岩瀬幹基(Design marks)

制作 長沼里佳／中村歩道

記録 友山敬太

撮影 ヤマモトハンナ

耳慣れたモーター音が聞こえる。
そこは地下鉄の車内。

乗客は全員がマスクをし、咳払いひとつせず静かに。
五席ある優先席の両端と中央に座る三人の男女。
つり革やスタンションポール（手すり）に掴まったり、捕まらずに踏ん張って立っただりの乗客たち。

到着アナウンスと、電車の扉が開く音。

優先席の端に座っていた乗客が居眠りから覚め、慌てて降りていく。

入れ替わるように、駆け込み乗車の男（副社長）が一人。

優先席の真ん中に座っていた男、空いた端に寄る。

ぼつかりと真ん中の席が空く。

駆け込み乗車の男、手刀を切りつつそこに座る。

電車の扉が閉まる音。

モーター音が段階的に切り替わり、加速していく車輪と、聞こえるか聞こえないかの声で女が口を開く。

女

（小さく）謝って。

車内に「何だ？」という微妙な空気が流れる。

女

謝れ：謝ってよ！

副社長

（反射的に）え、え？ ぐ、ごめんなさい。

周りの乗客、微妙に背を向けたり、スマホに集中したりと目をそらす。

女

（半ば独り言のように）信じらんない。どういうこと。

副社長

（困惑しながら）あの、どういうことと言われても、一体何のことだか。

女、副社長の方向をキッと睨む。

副社長

（痴漢の疑いをかけられている気になって）あっ！ あっ！

副社長、反射的に両手を上に挙げる。

副社長

違います。ほら、この通り。私の両手は先ほどまで膝の上にありましたし、今はほらこの通り。頭よりも高い位置にあります。手を伸ばせば確かに届くような届かないような微妙な距離ですが、一応ソーシャルディスタンス的なものが確保されており。触れない触れない。何も触れません、はい。

女 何とか言いなさいよ。
副社長 ですから、あの、誤

解です。無実です。冤罪です。

女 謝れ！

副社長 謝って済むのならそれはやぶさかではありませんが、謝るイコール罪を認めたということになるのであれば、それは断固謝るわけにはいかないわけでした。

と、反対側の端に座っている男が口を開く。

男 やめるよ、こんなところで。周りの迷惑だろ。

副社長 いや、私もできれば事を荒立てたいわけではありませんで。

女 五月蠅い、黙ってよ。

副社長 (混乱して) ええと、私、謝る、黙る、どちらを要求されてます？

女 黙って謝って。

副社長 黙って、謝る。

副社長、悩みながら両手を挙げたまま腰を折る。

女 邪―魔っつ！

副社長、ばね仕掛けのように元に戻る。

女 (明確に男に向かって) 謝ってよ！

副社長、ようやく男女の言葉が自分に向けられたものでないことを理解。

副社長、一瞬席を立つような素振りを見せるが、それも微妙で断念。

男女の間に挟まれながら気配を消して「無」になる。

後にしよう、後に。

そんなこと言って、いつも誤魔化すじゃない！

声が大きいつて。

だいたいなんで二人で座ってるのに勝手にそっちに詰めるのよ。

いや、だってソーシャルディスタンス？とらなきやいけないし。

だからって詰める？ そんなに私の近くにいたくないわけ？

そうじゃないって。

そうじゃないって、詰めたじゃん。

詰めたけど。

詰めたじゃん。

詰めたけど、それはソーシャルディスタンスをとらなきやいけないからで。

女 だからって詰める？ そんなに私の近くにいたくないわけ？
男 そうじゃないって。
女 そうじゃないって、詰めたじゃん。
男 詰めたけど。
女 詰めたじゃん。
男 詰めたけど、それはソーシャルディスタンスをとらなきゃいけないからで。
女 だからって詰める？ そんなに私の近くにいたくないわけ？
男 そうじゃないって。
女 そうじゃないって、詰めたじゃん。
男 詰めたけど。
女 詰めたじゃん。

副社長、心を無にしきれず反応。

副社長 あの！ あの、話がループしてます。終わらないです、その会話。
女 何アンタ。アンタ関係ない。
副社長 関係ないと言われましても、この位置関係は無関係ではちよつとツライ構図ではないかと思うんですが。

女、ヒートアップ。

女 だいたい何で勝手に間座ってんの。座らないでしょ、普通。二人で座ってるのに。間割って座るって、アンタ何？ 仲人？ 司会者？ (おまかせ…何か間に挟まるもの)？
副社長 間に挟まるのが好きな人なの？
女 いらないですよ、そんな人。いや、空いてたので、つい。というか、お二人がご一緒だとはつゆ知らず。
女 わかるでしょそんなの、普通、雰囲気で。
副社長 すみません、空気読めませんでした。
男 (女に) やめとけて。関係ないだろ、この人。
女 五月蠅い。
男 (お手上げ) …。
女 謝って。
男 だから、降りてから、電車。
女 (副社長に) 謝って！
副社長 え？
女 謝れ！
副社長 今度は明確に私に言ってます、よね？
副社長 元はと言えば、アンタがここに座ったのが悪い。
副社長 そんな無茶苦茶な。まあ、あの、確かに原因の一端ではあるとは思いますが、全ての責任が私にあるのかというと、ない、ですよ。

男 やめろって。(副社長に)すみません、ほんと。

女 (男に)なんでアンタが謝るの。

男 迷惑だろ、ワアワア言うなって。

女 誰のせいだと思ってるのよ。

男 …。

副社長 ああの、全部ではありませんが、一部、私のせいです。すみませんでした。

女 軽い。本気で謝ってない。

男 やめろって！

副社長、やおら立ち上がり…。

副社長 この度は、この度は…まことに…まことに…まことに…まことに…

謝ろうとするが、その理不尽さに言いよどみ、ただ立ち尽くす副社長。

音楽。

副社長だけを残り、乗客たち、三々五々消えていく。

暗転。

シーン
〇終

薄暗がりの中、ぼんやりと部屋の中の様子が窺える。
舞台には一本の長机。

舞台の上手面に腕組み立ちでカメラを首から下げた記者風の女が一人。
そして長机の向こうに立つスーツ姿の三人の人影。
静寂。

その真ん中の男が、意を決したように口を開く。

副社長 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

スーツの三人、一斉に頭を下げる。

女、やおらカメラのフラッシュとケータイの連写を浴びせる。

激しいフラッシュ音と光、連写の音ががひとしきり。

ようやく途絶えたタイミングで三人、顔を上げる。

常務 (緊張でガチガチな感じで) 本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。
でございます。

部長 (更に緊張でガチガチな感じで) ありがとうございます！

常務 本日の会見の司会進行を務めさせていただきます、弊社常務の尾詫(おわび)と申します。

部長 部長の御免(ごめん)です！

副社長 それでは失礼して、着座させていただきます。

三人、椅子に座る。

と、同時に記者風の女が口を開く。

先生 はいはいはい、ストップストップ。

と、緊張しきっていた場の雰囲気少し緩む。

副社長 あの、どこかまずかったですでしょうか？

常務 私でしょうか？

部長 私ですかね。

副社長 先ほど言われた通りにやったつもりなんです。

常務 私も。

部長 私も。

先生 つもり？

また場に緊張が走る。

先生 その「つもり」というのがねー、駄目なんですよ。できてない。全然言ったおりにできてない。客観的に見て百点満点の十五点。赤点です、赤点。

副社長 十五点？

常務 赤点？

部長 いや、せめて三十点くらいはあるんじゃないですか？

先生 十五点でも三十点でも赤点は赤点です。不合格。やりなおしです。なによりも一番の問題は、できてないということに自覚できてないことです。

副社長 といいますと。

先生 課題を認識しないと対策は考えられない。皆さんは先ほどのアレを「できてる」と思ってるわけですよね？ 百点とは言わないまでもまあ合格点くらいには。

副社長 いや、そこまで自信をもって「できてる」とは思わないですけど。

先生 赤点というほどヒドイ出来でもなかったんじゃないでしょうか。

副社長 カー！（急にやる気をなくした）帰ろうかな、もう。うん。帰る。

先生、部屋から退出しようとする。

三人、素早く先生の行く手を阻んで：

副社長 すみません！

常務 申し訳ありません！

部長 ごめんなさい！

三人、そろって土下座をして：

副社長 お願いですから

三人 帰らないでください！

副社長 今先生に見放されたら、私たちどうしたらいいか。

常務 そうです、先生。先生は私たちの唯一の希望です。

部長 蜘蛛の糸です。

三人、口々に「先生！」と言いながら前方回転土下座を繰り返す。

先生、三人に囲まれて：

先生 そう、それですよ、それ。できるじゃないですか。

副社長 それといたしますと。

常務 土下座ですか？

先生 違います。

部長 ローリング土下座ですか。

先生 違います。土下座じゃなくて、まずはその必死さです。動作や行動じゃなく…い

や、もちろんそれも大事なのですが、まずは気持ち、気持ちの問題なんです。ああ、なるほど。

副社長 つまり、私たちの先ほどの謝罪には気持ちがい足りない。

部長 もっと気持ちとか、誠意とかそういうものを見せないといけないと。そういうことでしょうか。

先生 そうそうそう、その通り。わかっているじゃないですか。

副社長 気持ち。

常務 誠意。

部長 なるほど、そういうことですか。

三人、なにかに納得したように頷く。

副社長 (常務に) じゃあ、常務、あれを。

常務 かしこまりました。じゃあ、部長、あれも。

部長 かしこまりました。

副社長 おっしゃること、よくわかりました。もう一度お願いします。

副社長・常務・部長、テーブルの向こうに横一列に整列。

先生も、定位置について…

先生 はい、じゃあはじめます。どうぞ。

副社長 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

スーツの三人、一斉に土下座をする。

先生 はい、フラッシュは省略します。はい、撮影とまりました。

三人、顔を上げる。

常務 本日は、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

部長 会心の詳しい内容に移ります前に、本日お越しの報道各社の皆様にお渡しした
いものがございます。

三人、先生の方に卑屈な感じでにじり寄ってくる。

先生 え？ 何、何？

副社長 (耳元でささやくような声で) お車代でございます。

先生 え？

常務 (現金入りの封筒を取り出して) お車代です、どうぞお納めください。

部長、某羊羹屋（と〇や）さんの紙袋を出してきて…

部長 ささ、どうぞどうぞ。

副社長 私共の気持ちでございます。

常務 誠意でございます。

部長 ここはひとつこれだなにとぞ穩便に。

先生、軽くキレて封筒と菓子折りで三人を殴打。

先生 馬鹿っ！ 馬鹿っ！ メガトン馬鹿っ！

先生、勢いのまま封筒と菓子折りを床にたたきつける。

先生 なにやってんの。ダメでしょそういうの！ 一番駄目なの、そういうのが。しかもマスコミ相手って、何考えてんの。

三人、お互いの顔を見合わせ「？」な表情。

副社長 いやしかし、先生先ほど、気持ちや誠意が足りないよ。

先生 言ったよ。言ったけど。違うでしょ、これ。気持ちとか誠意じゃなくて、現金と菓子折りでしょ。要するにワイロじゃないの。

副社長 はい。もちろん。

常務 誠意を見せるとか、気持ちを見せるとか、私共もクレーム対応でよく言われる言葉ではあるんですが、先生。

部長 だいたいの場合、そういうのに限って、実際にはモノやらお金やらを要求しているわけでした。

副社長 先生のおっしゃる気持ちと誠意もそういうことかな、と。

常務 察した次第です。

部長 付度いたしましたわけでした。

先生 あー（少し間をおいて冷静になって）違います。逆効果、そんなことしたら火に油ですよ。炎上しますよ、会見が。

副社長 あの、では先生のおっしゃる気持ちと誠意というのは具体的にはどうすれば…

先生 細かく言うと、色々あるんですが…。まずは順番に基本的なところから一つ一つ直していきましようか。

副社長 わかりました。

先生 じゃあ、初めからもう一回やってみてください。冒頭の謝罪から。はい。

副社長 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

スーツの三人、一斉に頭を下げる。

副社長のネクタイがだらしなくブラブラと垂れている。

先生 はーい、まずはそこ。なんかおかしいと思いませんか？

三人、頭を中途半端に下げたまま、お互いをチラチラみる。

副社長 いや、何かと言われても。

常務 (部長に) 部長、頭、もうちよつと下げた方がよくないかな？

部長 いや、常務こそ、ちよつと下げすぎじゃないですか？

常務 そっちが下げたほうがいいって？

部長 いやいやいや、常務が上げたほうがいいですって。(副社長に) どう思います？

副社長 どう思うって、ここからだ何がどうなってるか全然わからないんだけど。

三人、ああたこうだと原因を探すが結局：

副社長 あの、先生、申し訳ありません。全然わかりません。

先生 (小さく) ネクタイ。

副社長 はい？

先生 ネクタイ。

副社長 ネクタイ。

常務と部長も副社長のブラブラしているネクタイに注目。

三人 ああ！

先生 ネクタイブラブラ、最悪です。真剣な謝罪会見のド頭、いわば見せ場中の見せ場です。そこで頭を下げてネクタイブラー。その瞬間にこの会見は失敗です。

副社長 ああ、確かに。

先生 まずはスーツの前ボタンを留める。それから方が一スーツのボタンが外れてしまつても、ネクタイがブラブラしないようにする。基本中の基本です。

副社長 なるほど。ええとじゃあ、念のためにネクタイピンを。

先生 (険しい表情) ネクタイピン。

副社長 あの、先生、ネクタイピンに何か辛い思い出でも。

先生 ありそうに見えますか。

常務 ほぼ親の仇を見るような表情に見えますが。

副社長 あの、知ってます。先生がいらつしやる前に一応本で読みました。地味で光沢のないネクタイピンにすればいいんですよ。

先生 あーそうだ、今日の夜の〇〇録画予約するの忘れてた。帰ろうかな。帰る。

先生、部屋から退出しようとする。

三人、素早く先生の行く手を阻んで：

三人 わー！
部長 すみません！
常務 申し訳ありません！
副社長 ごめんなさい！

三人、ソーシャルディスタンス組体操土下座。

三人 何かお気に障りましたでしょうか。
副社長 (ネクタイピンを取り出して) これですか、これがいけないんでしょうか。クソッ、
なんだかわからないけど、こいつめ！ こいつめ！ 常務！

副社長、常務にネクタイピンを渡して…

常務 はいっ！ お前のせいで、お前のせいで、お前のせいで！

常務、一通りネクタイピンに折檻し部長に引継ぎ。

部長 うおおお、飛んでけー！

部長、ネクタイピンをどこか遠くへ放り投げる。

先生 ネクタイピンに罪はありません。

三人 ええっ！

先生 本。どこの馬の骨が書いたか分からないような本を信じてどうにかなるのなら、
私など呼ぶ必要ないでしょう。

三人 おっしゃる通りです！

副社長 (本を取り出して) これですか、これがいけないんですね。クソッ、こいつめ！
こいつめ！ 常務！

副社長、常務に本を渡して…

常務 はいっ！ お前のせいで、お前のせいで、お前のせいで！

常務、一通り本を折檻し部長に引継ぎ。

部長 うおおお、飛んでけー！

部長、本をどこか遠くへ放り投げる。

先生 プロはね。

三人 はい！

先生 ネクタイピンなんか、使わないんです。絶対に。

副社長 ネクタイピンを、使わない。

常務 ネクタイピンを使わずにネクタイをブラブラしないように？

部長 それはいったいどうすれば。

先生 プロが使うのはね。違うピンです。

副社長 違うピン？

常務 ヘアピン？

副社長 どうやって？

部長 押しピン？

副社長 痛い痛い。

先生 ヘアピンでも押しピンでもありません。

三人 はい！

先生 究極のプロユース、その正体はこれです。

先生、ポケットから安全ピンを取り出す。

先生 安ピン。正式名称「安全ピン」！

三人 安全ピン！

先生 ネクタイピン、そんな布と布を挟むだけのもの、いつ外れるかわかりません。そんな時には安全ピン。ここをこうしてこうやって…

先生、副社長のワイシャツとネクタイを安全ピンでガッチリ留める。

先生 こうしておけば、何かのアクシデントでスーツの前ボタンが留まっていなくても！

先生、勢いよく副社長のスーツの前ボタンを外す。

先生 はい、謝罪！

副社長 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

スーツの三人、一斉に頭を下げる。

副社長のネクタイはピッタリワイシャツに貼りついている。

三人、副社長のネクタイに注目。

先生 この通り、安全です。

三人 おー！

副社長 ブラブラしない！

常務 さすが先生！

部長 あー、やっぱり。そうだと思ったんですよ。
先生 そうだと思っただんですよ？

先生、少々気に障る。

部長 いや、多分ネクタイを何かで留めるんだろ？などは思ってたんですよ。なんかこう貼っけたり、留めたりとか。まさに安全ピンみたいなので。そうかー、やっぱりそうだったか。当たり前といえば、当たり前ですよね。

先生、かなり気に障る。

先生 当たり前。

副社長 (部長に) 馬鹿ッ！

常務 謝って、謝りなさい！

部長 (空気読んだ) す、すみません。

先生 あなた方、さっきヘアピンとか押しピンとか言ってますでしたっけ？

副社長 (部長に) 馬鹿馬鹿馬鹿ッ！

常務 もっと、もっと謝りなさい。

部長、かなり謝る。

部長 大変申し訳ありませんでした！

先生 怒ってませんよ。全然怒ってませんから。まあね、素人の皆さんの言い出しそうなことですよ。安全ピンを当たり前。種を明かせば当たり前。コロンブスの卵です。じゃあ、あなた方、誰か一人でもこれまでにネクタイを安全ピンで留めたことがありますか？ ありますか？ ないでしょう？ 考えたこともなかったでしょう？ なのに、答えを知ってしまうと当たり前に感じる。そういうのをね、後知恵、バイアスというのですよ。あーとーぢーえ！

先生、かなり怒っている。

副社長 あ、あの、部長のしでかしたこととはいえ、大変申し訳ありませんでした！

先生 はい、その「部長のしでかしたこととはいえ」要りません。それは「私には責任はありませんが」という言い訳です。詫びるなら詫びる。余計なことを言わない。鉄則です。

副社長 大変申し訳ありませんでした！

常務 私からお詫びします。大変申し訳：

先生 要りません。そのお詫び、まったくもって要りません。トップが詫びた後に、立場が下の人間が謝っても無価値です。詫びるときは一斉に詫びるか、トップ一人が詫びる。鉄則です。

常務 え、ええと、ということは。

三人、意を決して：

三人 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

先生 声が小さい！

三人 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

先生 揃ってない！

三人 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

先生 誠意が足りない！

三人 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

先生 オツケー。完璧です。その調子で本番、行ってみましょう。

音楽。

客席後方の扉にスポットライト。

客席後方の扉が勢いよく開くと、そこには巨大な工場扇。

唐突に会場の換気が始まる。

(シーン1終了)

風とスモークを一身に浴びて、三人のマスク姿の人影が姿を現す。

記者T（テレビ）・記者R（ラジオ）・記者N（ネット）。

それぞれの手にはメモ帳とボールペン。

記者Nだけがデジタルペンとタブレットを持っている。

それ以外にも記者Tはハンディカム、記者Rは収音マイク、記者Nは自撮り棒など、それぞれがそれっぽいやつを携えている。

記者三人、ものすごい勢いで謝罪の席につく三人のところに押し寄せる。

先生、いつのまにか机の下に潜り込み、姿を隠している。

対峙する三人と三人。

謎の緊張感。

と、お互いがソーシャルディスタンスギリギリを守るため飛び下がる。

記者と会社側3人の間には2 m以上、記者同士、会社側同士の間にはそれぞれ1 mが確保される

全員、マスクを外して：

副社長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

常務# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

部長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

テレビ# 今回の件についてどのようにお考えか、お聞かせください！

ラジオ# きちんと説明責任を果たすべきではないでしょうか！

ネット# どのように責任をとるおつもりでしょうか！

一瞬の静寂。

お互いがお互いを目でけん制。

三人、風を起こすようにグルグルと舞台上を廻り、

副社長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

常務# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

部長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

テレビ# 今回の件についてどのようにお考えか、お聞かせください！

ラジオ# きちんと説明責任を果たすべきではないでしょうか！

ネット# どのように責任をとるおつもりでしょうか！

副社長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

常務# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

部長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！

テレビ# 今回の件についてどのようにお考えか、お聞かせください！

ラジオ# きちんと説明責任を果たすべきではないでしょうか！

ネット# どのように責任をとるおつもりでしょうか！

副社長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！
常務# この度は、まことに申し訳ございませんでした！
部長# この度は、まことに申し訳ございませんでした！
テレビ 今回の件についてどのようにお考えか、お聞かせください！
ラジオ きちんと説明責任を果たすべきではないでしょうか！
ネット どのように責任をとるおつもりでしょうか！

舞台上をグルグルと回りながら、なんども同じ風景がリピートされる。
会社側の三人、急停止して：

副社長 とにかく
常務 この度は
部長 まつつつことに
副社長# 申し訳ございませんでした！
常務# 申し訳ございませんでした！
部長# 申し訳ございませんでした！

音楽 (DOTAMA「謝罪会見」)
全員、マスクを再装着。

ありつたけの人間が、大音量で音楽が鳴り響く中無言でもみ合いとなる。
暗転。

タイトルコール映写。

映写の光の中で、お互いが謝罪したり謝罪されたり姿が垣間見える。

「2020/05/15-17」

~~「2020/05/15-17」~~

「2020/09/11-13」

「最新旧型機 クロックアップ・サイリックス第21回公演」

「シャザイカイケン」

「シャザイカイケンSD」

やがてZoomのリモート会議の画面が映し出される。

(工場扇による強制換気終了)

会社側の三人だけを残し、勢いそのままに記者や男・女などは退場。

光が戻ってくる。

そこには頭を下げた状態のままの会社側の三人。

静寂。

副社長 あの…。先生。
先生 (机の下から声だけ) なんでしょう？
副社長 あの、その、タイミングは。
常務 そろそろ頭を上げても：

部長 よろしいでしょうか。
先生 駄目です。
副社長 しかし先生：
先生 (声) はい？
常務 この姿勢、長い時間はちよつと
部長 辛いです！
先生 駄目です。
副社長# 先生！
常務# 先生！
部長# 先生！

先生、机の下から姿を現す。

先生 まだあふれてこない。伝わらないですよ、そんなんじや。
副社長 あふれる？
常務 伝わらない？
部長 あの、それはいったい何が？
先生 イ。
副社長 胃？
常務 猪？
部長 位？
先生 そう、意。反省の意、謝罪の意、つまり誠意です。
副社長 しかし先生
常務 リモートですよね。
部長 目の前にいないわけですよね。
副社長 そういう雰囲気的なものが
常務 リモート会見で
部長 伝わるもんでしょうか。
先生 伝わります。むしろ、伝わらなければ会見は失敗です。
副社長 そうだとしても先生。
常務 これ、練習ですよね。
部長 リハーサルでここまでやる必要あるんでしょうか。

三人、あまりの肉体的な負荷に悶絶。

先生 本番です。先ほどまでは単なる基本的な練習。演劇でいえば柔軟や発声練習です。
副社長 そして今は本番を想定した本気の練習。演劇でいえば通し稽古やゲネプロです。
常務 先生！
部長 もう駄目です！
副社長 限界です！！

三人、限界を迎えもんどりうって倒れる。
腰を押さえたりしたまま、起き上がれない。

先生　そもそも何故謝るときに頭を下げるのか、わかりますか？

副社長　え、何故って、

常務　それは、ええと

部長　考えたこともありませんでした。

先生　頭を下げるとどうなります？

副社長　腰が痛くなります。

先生　まあそれはそうですね。

常務　頭に血が上ります。

先生　まあそれもそうですね。

部長　目の前が真っ白になります。

先生　はい、そうですね。どれもこれもそうですね。ではヒントです。頭を下げるとい

うことは、相手に自分の首を見せるといことです。

部長　(ピンときてない) はあ。

副社長　(同じくピンときてない) 首を見せる。

先生　そう、首をみせるんです。首がこう、こんな感じでここにあるということ？

常務　(ピンときた) あ、もしかして！

先生　はい、どうぞ。

常務　自分の急所をみせるってことですか。

先生　正解！ 自らの急所をさらけ出し、首を切り落とされても文句はない。そういう

心からの謝罪の意を示すために頭を下げるんです。

副社長　なるほど！

部長　さすが先生！

先生　そしてさらにこの不自然な辛い姿勢に長時間耐えることでも反省の意を見せるわけです。

副社長　ますますなるほど！

部長　さすがが先生！

先生　そこからあふれ出てくるもの、醸し出されるものが謝罪の本質、誠意です。誠意とは言葉でもましてやワイロでも菓子折りでもなく、謝ろうとする心とその形そのものなんです。

副社長　わかりました、先生。

常務　頭を下げ続けるのはつらいですが

部長　きつとやり遂げて見せます。

副社長　ですが、今はちよっと

常務　足腰へのダメージが

部長　ご覧の通りです。

副社長　少し、休憩をいただけませんか。

と、舞台面の明かりが消え、壁の窓状のエリアの一角に明かりが灯る。
そこには手元のメモに目をやりながら、スマホをいじる記者Tの姿。

テレビ

ええと、メールで送ってきたこのリンクをクリックするだけで、ズームの画面が開いて…開いて…開かない。え、なんでplayストアに飛ばされんの？ これアプリ入れないとダメなやつ？ あ、(手元のメモを見て)もしかしてこれパソコン用のやり方？ スマホだとアプリ要るんだ。ズームクラウドミーティングス。え、何メガあんの、このアプリ。

記者T、ブツブツ言いながらスマホの画面をスワイプ。

テレビ

ええと、サイズサイズ、あつた94メガ。94！ まあまああるね。今月残り何ギガあつたつけ？ いやもうギガレベルでは残ってないよな。なんか昨日通信制限予告のメール来てたし残り何メガかだよ。予告メール残り200とか100とかくらいで来るんだつけ？ え、大丈夫？ 俺、これダウンロードしてインストールしたらギガが尽きない？

記者T、スマホの画面を見つつ、スマホの位置を色んなところに移動。

テレビ

なんか、どつかに飛んでないかな、WiFi。パスワードいらないやつ。94メガ。駄目だわ。このアプリ落としたら、俺、確実にギガが尽きるわ。どっか、この辺とか。飛んでないか、何でもいいから。どうよ。こっちは。この辺とか。あ、きた。つながった！切れた。またつながった。弱い。微妙。コンビニのやつか。もしかして自動ドアが開いたときだけ電波洩れて繋がるやつ？

記者T、スマホの位置を微調整している間に変な姿勢になる。

テレビ

立て。アンテナ立て。もう一本。

記者T、スマホの手前角を持って腕を思いっきり伸ばす。

テレビ

よし、きた！ WiFiバッチリ入ってる。よし、それじゃインストールボタンを…

記者T、スマホの角を持っているので、指が画面に届かない。

テレビ

あ、駄目だ。ダメな奴だこれ。

記者T、小指等フリーな指を駆使して画面をタッチしようとするが届かず。

テレビ 攣る、攣る。指が攣る。無理無理無理。

記者T、少し頭を働かせ…

テレビ なら、こっちは…

記者T、左腕をスマホに伸ばす。

右腕を思いっきり伸ばしているので、もちろん画面に届かない。

テレビ

あ。馬鹿。俺の馬鹿。届かない。届くわけないじゃん。伸びろ、俺の左手。伸びない。伸びるわけない。もしかして、ちよつとずつ、こっちにもどしたら、WiFiつながったままで…切れた。これは、あれか。一か八か、ここでインストールボタンを押して、素早くWiFi入る場所にスマホを戻せば、いけるんじゃない？ 俺、天才じゃない？

記者T、手元にスマホを持ってきては、元の位置に戻すのを繰り返す。

WiFiがちゃんと入っているのを確認して…

テレビ

オーケーオーケー、いけるいける。よし、じゃあ本番いきまーす。3・2・1！はいっ！

記者T、手でインストールボタンを押す。

素早くさきほどWiFiが入った場所にスマホを移動。

テレビ

よし！ よし！ いや、良くない。消えた。WiFi、どっかいった。あれ？あれ？

メガだかギガだかを消費しつつ、ダウンロードが進行。

テレビ

ああ、待つて待つて待つて、ダメダメダメ。

記者T、慌てて色々な場所でWiFiを探すがどこにも見つからない。

テレビ

ヤバイヤバイヤバイ。ギガヤバイ、メガヤバイ。駄目。ちよつと、WiFi。どっか。つながるとこ。どっか！

記者Tの窓、明かりが消える。

と、別の窓状のエリアに明かりが灯る。

そこには記者Rの姿。

ラジオ ええと、メールで送ってきたこのリンクをクリックするだけで、アプリが起動して：ズームの画面が：開いた。(驚嘆) おおー、こんだけいいんだ。便利な世の中になったもんだねえ。昔のテレビ会議システムとか、機材もいるし、専用回線引いたりもしなきゃいけなかったし、値段も何百万もしたのに、今やスマホを二、三回触るだけでできちゃうんだねえ。しかも無料(タダ)で。

記者R、スマホをスマホホルダーに固定しながら…

ラジオ ラジオもねえ、今じゃネットでもアプリでも聞けちゃうし、なんなら録音しなくても、タイムシフトで後からでも聞けちゃうし。配信とかと何が違うんだって話だよね…。昔はエフエムでエアチェックした音楽をダブルデッキのステレオコンポでメタルとかハイポジとかのカセットにダビングしてベスト作って、レタリングシートでカセットのインデックス貼ったりしてねえ…。わからんよなあ、今の若い人には今出てきた単語、片っ端からわからんよなあ。ほぼ呪文とかお経みたいに聞こえるんだろうなあ。はあ、年、とったなあ…。

記者R、少し物憂げに…

ラジオ しかし、今時ほんとにラジオで聞いている人ってどんだけいるんだろうね。いいとこカーラジオとか爺ちゃん祖母ちゃんくらいのもんか。買っても安いのなら千円しないし。そのうち100円ショップとかでも買えるようになったらちゃうのかねえ。…鉱石ラジオ、はじめて作って音が聞こえた時、感動したもんなあ。ラジオを作る、なんてのも若い人にはわからないか。部品買ってきて、エナメル線くるくる巻いてコイル作って…。それが今じゃスマホにアプリ入れてちよいちよい。確かに便利になったけど、なんか味気ない。…いかんいかん、そんなことを言ってる時点でオッサンだ。がんばろ。若ぶって、テクノロジーについていつているフリだけでもしよう。うん。

記者R、仕事モードに戻って…

ラジオ あれ、でもこれって録音するの、ICレコーダーのアプリでできるのかな。会社行けばなんか機材あるんだろうけど、当分リモートワークしろって言われている。…(スマホを手にして)へい、シリ！ あれ、起動しない。へいシリ！へいシリ！

記者R、色々なへいシリを試すが起動しない。

ラジオ なんて機械に話しかけるのってこんなに恥ずかしいんだろう。誰が見てるわけでもないのに。へいシリ！ もう、シリ！ お願いだよシリ！

記者R、あきらめて…

ラジオ ああ、もう！ たしかボタン長押しでもいいんだっけ。あ、起動した。はじめからこうすりゃよかった。ええと、「ズーム、録音、アプリ ウェブで検索」

siriが「こちらが見つかりました」と答える。

ラジオ 便利だねえ、ほんと。

記者Rの窓、明かりが消える。

と、別の窓状のエリアに明かりが灯る。

そこには記者Nの姿。

ネット (無言でスマホの画面をスワイプしたりタップしたりしている) …よし、次。

記者N、もう一台スマホを取り出して…

ネット (また無言でスマホを操作) …よし、次。

記者N、タブレットも一台取り出して…

ネット (また無言でスマホを操作) …よし、準備完了つと。まだ時間あるかな。あるね。とりあえず盛りまくった自撮りをリア充風に裏垢に投稿と。(お任せ)「彼ピッピとラブラブデート! #デート #ラブラブ #でもコーデは全身しまむらとユニクロ #なにげない幸せ」。どーん。よし、いいねこい。シェアこい、コメントこい。爆発しろ、炎上しろ! こない。こん。なんでじゃ。反応ない。原因は? 盛りが足りない? ハッシュタグが悪い? 映えてない? よし、再撮影。

記者N、自撮りを再撮影。

ネット スノーで加工したあとに、更にスナチャで面白画像に変換して、よし、これじゃろ。イケてるし、映えてるやろ。(お任せ)「彼ピッピとラブラブデート! #デート #ラブラブラブラブ #でもコーデは全身ジーユーと無印 #なにげない幸せ」。どーん。よし、いいねこい。シェアこい、コメントこい。爆発しろ、炎上しろ!

記者N、スマホを見つめて…

ネット こん、やっぱりこん。なんでなんや…。

記者N、スマホを激しく操作して色々試している様子。

ネット かくなる上は、ありったけの捨て垢とbotでリツイート祭りで、どうじゃ。

間。

ネット 減った。フォロワー減った。なんでじゃ！ やっぱバーチャル彼氏じゃいかんのか。とか言ってる間にまた減った。YouTubeのチャンネル登録も減った。お、来た。メッセンジャーになんか来た。お、なんか次々来た。「このビデオはいつですか」ってスパムのウイルス動画やんか。くっそ、もう、なんなん。

記者Nの窓、明かりが消える。

と、机の上にタブレットが置かれ、リモート会見の準備が整っている。

テーブルの向こうに立つ副社長・常務・部長の三人。

カメラに映りこまない位置に腕組みの先生の姿。

更にマスクにフェイスガードで完全武装の清掃員風の男女二名の姿も。

男女の手には「霧吹き」と「ダスター」。

飛沫が飛んだっばい場所を瞬時に消毒・清掃していく。

副社長 この度は、まことに申し訳ございませんでした！

三人、一斉に頭を下げる。

フラッシュ音のかわりに霧吹きであたりを消毒する音だけが響く。

先生 (小声で) はい、オッケー！

先生、頭を上げてのジェスチャー。

三人、頭を上げて：

常務 それでは定刻となりましたので、ただいまより会見を始めさせていただきます。なお、本日の会見は新型コロナウイルス流行防止の観点から、WEB会議システムの「Zoom」を利用したりリモート会見となります。何卒ご了承くださいます。私、本日の会見の司会進行を務めさせていただきます、弊社常務の尾託(おわび)と申します。

部長 部長の御免(ごめん)です。

副社長 それでは失礼して、着座させていただきます。

三人、着席。

常務 本日は、お忙しい中お集まり?いただき、ありがとうございます。

部長 ありがとうございます。

副社長、ものすごく緊張して…

副社長 えー、あの、その、この度は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます…

常務 (小声で) それ、もう言いました。

副社長 あ、そうかそうか。あの、ありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。え

ー、その、この度は、まことに申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。

三人、再び深く頭を下げる。

と、記者Tの窓に明かりが点く。

そこはブラインドのようなものが降りており、記者Tの声だけがその向こうから聞こえる。

テレビ (声) あの、よろしいでしょうか。

副社長 あ、はい。どうぞ。

テレビ 新日本(しんにほん)テレビです。あの、お詫びの気持ちはよくわかりました。できれば詳しい内容を簡潔にお願いしたいのですが。

常務 あの、そちらの映像が映っていないようですが、大丈夫でしょうか。

テレビ いいんですか？ テレビですよ。

テレビ そちらの映像は見えてますので大丈夫です。こちらは声さえ入ってれば問題ないので。それよりも詳しい内容をお願いします。とにかく早めに。ギガが尽きないうちに。

副社長 ギガ？

テレビ とにかく、お願いします。早く！

副社長 えー、あのー、実は、はい。それは、そのー(口ごもる)

副社長、口ごもり静寂。

と、記者Rの窓に明かりが点く。

ラジオ あの、すみません、大日本(だいにほん)ラジオですが。よろしいでしょうか。どうぞ。

ラジオ あの、なんかしゃべってももらえますか？ なんでもいいんです。無音だと困るんですよ。生放送だと放送事故みたいになるんです。

副社長 え、生放送なんですか、この会見!?

ラジオ 違います。違いますけど編集とか色々面倒臭いんで、できれば長い尺使えるようにしゃべってもらえると助かるんですよ、ウチとしては。

副社長 あ、はい、すみません。

テレビ　　なんだよネットニュースかよ。

ネット　　ネットですけど何か？ そっちこそリモートだからって、顔出しもせずに音声

　　だけとか失礼じゃないです？

テレビ　　いや、これは色々あって。

ラジオ　　あ。

常務　　あの、何か？

ラジオ　　あ、いやいや、何でもありません。どうぞ続けてください。

　　記者R、スマホの画面ををタップ。

　　「バッテリー残量が少なくなっています」の警告が出た様子。

ラジオ　　ちよつと音声ミュートにして失礼します。

　　記者R、スマホを操作して音声ミュート。

① 記者R　② 副社長・常務部長　③ 記者T・記者Nのパートが並行して進む。

並行パート①

ラジオ　　いかんいかん。充電切れるとこだった。ええと、ライトニングケーブル、ケー

ブルは…ないな。どこ置いたっけ。あれ？

　　記者R、その辺を探し回るが充電用のケーブルは見つからない

ラジオ　　あれ、おかしいな。最後にどこで使ったっけ。(考えて)…思い出せない。年

　　だなあ。あ、あ、そうだ。モバイルバッテリーが確かこの辺に。あった。よし。

　　いやダメだ。充電ゼロだ。まいったな。残り十八%…まあなんとかなるか。

　　記者R、再度スマホを操作してミュートを解除。

並行パート②

副社長　　ヤッホーニュースって、あのヤッホーニュース？

常務　　のようですね。

副社長　　あれだろ。ヤッホーニュースって、一日何百万人とか何千万人とか見てるんだ
ろ。

常務　　詳しい数字まではわかりませんが、はい。

部長　　え、すごいじゃないですか。

副社長　　すごいというより、まずいんじゃないか。

常務　　ですね。もしこの会見が炎上でもして、それが記事になったりしたら…。

部長　　え、ヤバイじゃないですか。

副社長　　いかん。なんか緊張してきた。

並行パート③

ネット 色々ってなんですか。

テレビ それは、色々あるんだって。

ネット いや、おかしいでしょ、顔出さないと取材するって。もしリモートじゃなかったら、記者会見の会場で、覆面かぶって取材してるようなもんでしょ。

テレビ リモートじゃなくても、このご時世どうせマスクで顔半分くらい隠れちゃうんだから一緒じゃない。

ネット いやいやいや、おかしい。絶対なんかおかしい。なんか隠してないですか？

並行パート終了。

ラジオ あ、すみません。失礼しました。戻りました。

常務 あの、どうしましょう。その幹事社さん、全日本新聞さん、お待ちした方がよろしいんでしょうか。

テレビ あ、いいです。異例ですけど、私仕切りますんで、進めちゃいましょう。

いいですよ？

ラジオ うち結構わるいです。というか、うち色々ありますので、むしろ速やかにお願いします。

ネット 構いまーす。そんな顔も見せないような人に仕切られたくありません。

テレビ なんだよ、もう！ わかった。わかりましたよ。顔見せればいいんでしょう？

記者T、Z o o mを「ビデオの開始」に切り替える。

と、記者Tの窓が開き、記者Tが姿を現す。

テレビ 改めまして、急遽幹事社を務めさせていただきます、新日本テレビです。よろしくお願いします。

記者T、Z o o mを「ビデオの停止」に切り替える。

と、記者Tの窓が閉じ、記者Tの姿は再び見えなくなる。

ネット ちょっと、なんですすぐ音声だけに戻すんですか。

テレビ なんだよ、ちゃんと言われた通り顔は見せたでしょ？ いいですよ？

ラジオ はい、うちは構いません。

副社長 私どもは、何もかも初めてでよくわからないので、皆さんが構わないようでしたら、結構です。

…。

テレビ (記者Nを無視して)それでは改めまして質問させていただきます。幹事社の新

日本テレビです。お詫びの気持ちにはよくわかりました。今回の件についての原因、経緯と今後の再発防止策などについて簡潔にお聞かせいただけますでしょうか。

副社長 えー、あのー、実は、はい。それは、そのー(口ごもる)

副社長、再び口ごもる。
静かな間。

ラジオ あのと、すみません、大日本…

記者T、素早く記者Rの発言を制して…

テレビ わかってます。無音は困るんですよ。わかります。でもね、結果的に割り込む形になるので勘弁していただきたいんで（副社長に）あのと、いかがでしょうか。

副社長 原因、経緯、今後の再発防止策ですね。はい、それは、今回の問題の発生原因を踏まえ、経緯を分析し、しっかりと反省をしたうえで再発の防止に努めてまいりたいと考えております。

テレビ いや、だから、そういうフワツとした感じじゃなくて、もっと具体的に。

常務 それはまあ、なんと言いますか。

部長 その、なんと申し上げてよいやら。

三人、お互いをチラチラと見る。

副社長 常務。

常務 部長。

部長 いやいや、ここはやはりトップから。

副社長 いやいやいや、トップって…：そういわれるとしようがないか今のところ。

常務 そうですよ、ここはひとつ、お願いします。

部長 会社を代表してつてことになる、我々には荷が重すぎるんじゃないかと。

副社長 わかった。で、実際どうなの、常務。

常務 どうなの？ 部長。

部長 どうなの、と言われましても、どうなんでしょう。

副社長 え、君、聞いているんじゃないの？

部長 いいえ。私はつきり常務をご存知かと。

常務 （副社長に）え、直接聞いてらっしゃるとばっかり。

三人 え？

冷たい間。

三人 えええええっ！？

テレビ あの、どうかなさいました？

副社長 あ、ええ、大丈夫です。

常務 なんでもありません。

部長 まったく問題ないです。

三人の目が世界水泳レベルで泳ぎ、華厳の滝レベルで汗がしたたり落ちる。先生、異変を察知して：

先生 (三人に) ストップ！ そのまま！ そのまま動かない。そうそう。瞬きダメ！

三人、ストップモーション。

先生、副社長を画面の外に手招き。

副社長、机の下に潜り込んで、Zoomの画面から瞬時に消える。

テレビ わ、ヤバイ。通信制限かかっちゃった？

ラジオ あれ、止まった。聞こえます？

ネット あら、フリーズした？

記者たち、スマホやタブレットの画面をタップしてみたりする。

先生、どさくさに紛れて、ホスト側の音をミュート。

先生 (残った部長と常務に) カクカク動いて。

部長 か、カクカク？

先生 (カクカクしながら) そう、カクカク。

先生 それから飛び飛びで喋って。

常務 と、飛び飛び？

先生 (飛び飛びでしゃべる) そう、とびとびでしゃべって

常務# こんな感じですね、わかりました！

部長# こんな感じですね、わかりました！

先生、ホスト側のミュートを解除。

常務と部長、カクカク動きながら、飛び飛びでしゃべる。

(内容お任せで)

常務

それでは定刻となりましたので、ただいまより会見を始めさせていただきます。なお、本日の会見は新型コロナウイルス流行防止の観点から、WEB会議システムの「Zoom」を利用したりリモート会見となります。何卒ご了承くださいませ。私、本日の会見の司会進行を務めさせていただきます、弊社常務の尾託(おわび)と申します。

副社長、机の下を通って先生の近くに移動。

先生、マスクを外し、副社長にもマスクを外すようジェスチャー。

先生　ちよつと、どういふ：

と男・女が先生と副社長の二人の間に割って入る。
男と女に引つ張られ、上手と下手の端くらいまで分断される先生と副社長。

女　ダメダメダメ。
男　近い近い近い。
女　マスクなしで対面し
男　1 m以内の距離で十五分以上の会話をした場合
女　濃厚接触と認定されます。
男　濃厚接触と認定されませぬ。
女　新型コロナウイルス感染症拡大防止へのご協力
男　何卒よろしくお願いします。

男と女、それぞれ「1 m」と書かれたウレタン棒を取り出す。
先生と副社長の口と口の間を厳密に2 m測り：

男　ソーシャルディスタンス2 m確保ヨシ！
女　マスクを外し、対面しての会話が連続して十五分まで可能です。
男　一度手に触れたマスクは消毒！

男と女、先生と副社長のマスクを霧吹きの中の液体で消毒。

女　#　（指さし確認）マスク、消毒ヨシ！
男　#　（指さし確認）マスク、消毒ヨシ！
女　念のためマスクに触れた手と指もアルコールで消毒！

男と女、先生と副社長の手と指を霧吹きの中の液体で消毒。

女　#　（指さし確認）手指（しゅし）の消毒ヨシ！
男　#　（指さし確認）手指（しゅし）の消毒ヨシ！
女　飛沫並びにエアロゾルに対する迎撃準備よいか！
男と女、先生と副社長の間の空間に霧吹きを数回噴射。

男　飛沫感染防止のための空間消毒準備ヨシ！
女　換気のための巨大扇風機始動！

再び工場扇が後方扉から登場し、換気が始まる。

男 巨大扇風機、始動ヨシ！ 運転順調！
女 気流ならびに換気確認のためのスモーク、噴射！

再びスモークが焚かれる。

男 噴射ヨシ！
女 気流確認！ 客席側への空気流入一切なし 巨大扇風機、出力最大！
男 巨大扇風機、出力最大ヨシ！

客席・舞台が換気され、あたりのスモークがきれいに排煙される。

男 排煙完了！
女 オールグリーン！
男 新しい生活様式遵守！

女 (カンペOK)緊急事態舞台芸術ネットワークが定める「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン令和2年7月1日版」完全準拠！

男 絶対安全！
女 絶対安心！
女 # では、会話を始めてください！
男 # では、会話を始めてください！

男、先生と副社長の距離が縮まらないように監視。

女、ストップウォッチをスタート。

厳戒態勢の中、先生と副社長が対面してマスクなしで話し始める。

先生 あの、もしかしてなんですけど。

男と女、霧吹きの中の消毒液を先生と副社長の中間地点あたりで噴射。

飛沫が飛んだっばいエリアの床も素早く拭き上げる。

副社長 はい。

男と女、霧吹きの中の消毒液を先生と副社長の中間地点あたりで再度噴射。

飛沫が飛んだっばいエリアの床もまたまた素早く拭き上げる。

先生 (男と女の消毒活動に) 気になりますね、これ。
副社長 ですね。

男と女、そんな言葉を意にも介さずひたすら消毒。

女 消毒ヨーシ！

男 拭き上げヨーシ！

副社長 マスク、しちやえはいんじやないですか。マスク外してるから、こうなるわけ
で。ずっとマスクしたままなら、ほとんど普段通りでいいんでしょう？

先生 それはそうなんです、念のため確認したい大事なことがあります。マスクし
たままで聞くのもちよつと違うかなーと。

副社長 なんでしょう。

先生 あの、もしかしてですけど。

副社長 はい。

先生 謝罪の具体的な内容というか、要するに何をやらかしちやつたかを知らないな
んてことは、まさか、ないですよ。

二人、ひきつった笑い。

副社長 知らないというか、わからないというか。

先生 それ、どっちにしても一緒ですよ？

副社長 いや、私の中では大きく違うんですが。

先生 私の中ではその違いがよく理解できないんですが。

副社長 まあ、そうですね。知らないです。てつきり部長が知ってるものと思つて。

先生 で、部長は常務が知つてると思つていて、常務はあなたが知つてると思つていた
と。そういうことでしょうか。

副社長 そういうことになります。

先生 ちよつと、社長！ なんなんですかその風通しの悪さ！

副社長、無反応。

先生 社長？

副社長 違います。

先生 違いますって、何が？

副社長 社長じゃないです。私、副社長です。

先生 え？ ええっ！？ じゃあ社長は？

と、常務、いつの間にか部長一人を置いて抜け出してきていて…

常務 あいにくと…

女 ダメダメダメ。

男 近い近い近い。

常務と先生・常務と副社長の口と口の間を厳密に2 m測り…

男

ソーシャルディスタンス2 m確保ヨシ！

男と女、常務のマスクや手指なども手際よく消毒。

女

OKです、どうぞ！

常務

あいにくと、不在にしております。

先生

なんで。

常務

なんでとおっしゃられましても、いないものはいないわけでした。

副社長

重大な発表があるので記者会見を開くってFAXを、報道各社に送ったところまではわかってるんですが、その後、まったく連絡が付きませんでした。

常務

責任感がまったく無いようにみえて、毎月十日・二十日・三十日には意外とあるような不思議な人です。

先生

なんですか、そのイオンのお客様感謝デーみたいな飛び飛びの責任感は。

常務

あ、いえ、支払日です。所謂五・十日（ごとうび）というやつで。いい加減そうに見えて、お金の支払いのことだけは本当にしっかりしている社長でした。今日もほら、月末の三十日ですよ。もしお金がらみのことだとすると、もしかすると責任を感じて今頃どこかの樹海の立ち木や海辺の断崖絶壁から…。

副社長

さすがに会見に社長がいないのはマズいと思ひまして、私がこう、なんとなくフワリ社長っぽい感じで押し切ろうということで、常務とも相談いたしました。

先生

なんですか、フワリ社長っぽいって。騙しじゃないですか、そんなの。

常務

騙しだなんてとんでもない。私も部長も、副社長のことを「社長」だなんて一言も呼んだ記憶はありません。代表とかトップとは言ったような気はしますが、それは今この場での代表やトップであるという事実を表現しただけで、まあ聞く人によつては副社長のことを社長と思ひ込んでしまうみたいなことも無きにしも非ずですが、それは先生、我々が騙そうとしたとかそういう話ではなく、単に聞く側の勘違いということになるのではないかと思う次第です。

先生

それ、朝ごはんは食べてないと言っておきながら、後になつてから「ごはんは食べてないけどパンは食べたって言う某国の総理大臣が大好きな論法と同じじゃないですか。ダメなんですってばそういうの。誠実さのないただの詭弁です。意図的に勘違いさせようとすることも騙しの一種、むしろただの嘘より悪質です。

常務

まあ「副」とはいえ社長ですし、このまま社長が帰つてこなければ「副」が取れて本場の社長になることもありうるわけですし、その辺はまあ突き詰めずにこのままトップとか代表とかかって感じてフワリで…いけませんかね？

先生

本当はね、ダメなんです。絶対。今からでも「すみません、実は社長じゃなくて副社長でしたー」って真実を打ち明けるべきなんですけど、ですけど、でもまあ、今更ねえ、まあ確かに自分から社長ですって名乗ってるわけじゃないしねえ、仮に打ち明けたとしても、その上謝罪する内容については実はよくわかりませんって…どう考えても炎上間違いなしでしょ…。叩かれまくりですよ、こんなの。

副社長

ですよね。

先生、悩みながら…

先生 あのだ。

副社長 はい。

先生 私、聞かなかったことにしますんで。今の一連のやりとり。きれいさっぱり記憶にございません。

常務 じゃあ、引き続きフンワリした感じで。

先生 そのフンワリとかも含めて記憶にございません。…で、どうするんですか。このまま具体的なことに触れずに謝り倒すだけじゃ、会見終わりませんよ。

常務 やっぱりそうですね。

先生 何かないんですか、心当たりは。

副社長 いや、ないわけじゃないんですよ。

常務 むしろ心当たりが色々ありますよ、わからないんです。その社長の言う「重大発表」がどれのことなんだか。

副社長 ですから先ほど私、言ったんですよ。「知らないというか、わからないというか」って。

先生 あ、なるほど。それは全然違いますね。私の中でも理解できました。ところで、もう通信状態とかアプリのせいにするのも限界だと思えますので、その、心当たりのあるやつ、決め打ちでいっちゃいましょう。

タブレットの前で汗だくの部長がカクカクしながら時間をつないでいる。

副社長 決め打ちって、大丈夫でしょうか、先生。

常務 打ち合わせしなくて大丈夫なんでしょうか、先生。

先生 大丈夫です。任せてください。プロですから。

常務と副社長、テーブルの下から椅子の前に戻る。

もはやおなじみの長机の向こうに立つスーツ姿の三人。
副社長、口を開く。

副社長 この度は、重ね重ね、まことに申し訳ございませんでした！

副社長・常務・部長、一斉に頭を下げる。

テレビ あ、もどった。よかった。通信制限じゃなかった。終わったかと思った。俺。
ラジオ お、もどった。しかし、やっぱり最先端のテクノロジーは怖いね。昔の機械だったら、だいたい叩くか息をフツてすれば治ったけどね。

ネット おせー。さつさと再起動でもなんでもすりゃいいのに。どんだけかかってんの。

副社長・常務・部長、頭を上げて：

常務 えー、先ほどより、原因不明の通信障害のため、ご参加の報道各社の皆さま、な
らびに関係各所の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしました。無事、復旧いたし
ましたので、会見を続けさせていただきますと思います。（副社長に）それでは、
お願いします。

副社長 えー、それでは、

先生、紙に「ロパク」の指示。

副社長 （ロパク）えー、私は今、ロパクでしゃべっているわけなんですけど、もし読唇術
ができる方がいらっしゃったらヤバイなと思いますながらしゃべっています。物真似
しまーす。元兵庫県議会議員、野々村竜太郎。（有名なあのポーズ）

テレビ あれ、すみません、聞こえませんか。あ、もしかして今度こそギガ尽きた？

ラジオ あれ、聞こえない。なんか触っちゃったかな？ 省電力モードだと音声聞こえな
いとかないよね？

ネット また？ ちょっとマジだるい。なんなん。

先生、「ビデオの停止」をした上に「ミュート」

テレビ うわ、映像まで消えた。ヤバイ、俺、終了のお知らせ…。

ラジオ あれあれあれ、映像まで消えちゃった。やっぱ変なところ触っちゃったかな？

ネット もう、ろくに使いこなせないのに、Zoomでリモート会見とかすんなよー。

先生 リハーサルする時間ありませんから、ぶっつけ本番でいきますよ。手短かに説明
しますのでよく聞いてください。

副社長 は、はい。

先生 まず、皆さんそれぞれ心当たりがあるという「謝罪しなければならないような何か」を思い浮かべてください。思い浮かべましたか？

三人 はい。

先生 では、その中でまずは一番軽いと思う内容を（部長に）あなたが謝罪します。

部長 え、私ですか。無理です、私、すごく緊張するタイプなんで。失敗します。失敗しますよ、絶対。

先生 こういう場合、立場が下の人間から発言しておけば、もし失敗しても上司がカバーできます。大丈夫です。安心して失敗してください。織り込み済みです。

部長 あ、いや、頑張ります。できるだけ頑張ります。失敗すると思いませんけど。

先生 もし、その謝罪で記者が納得して会見が終われるようなら大成功。もし追及が厳しければ次は（常務に）あなた。

常務 は、はい。

先生 最初の内容よりも、もうちよつとヤバそうな内容をお願いします。それでも駄目なら、最後の最後に（副社長）あなたの登場です。

副社長 なるほど。しかし、もし私でおさまらなかったら、どうなります？

先生 大丈夫です。ここまでくれば時間もかなり経過していますし、報道陣も「もうこの辺でいいかな」と思い始めます。ずっと人に怒りをぶつけていると、なんかいたたまれないような、いやーな雰囲気になってくるでしょう？ 報道陣に「あー、なんかこれ以上言うの悪いなー」と思わせることができれば、我々の勝利です。

副社長 なるほど。

常務 さすが先生！

部長 さすがプロ！

先生 では、いいですか？ ここからが本番の本番。正念場です。

先生、ミュートを解除し、ビデオの開始をタップ。

常務 えー、たびたび失礼いたしました。機材トラブルが発生し、一時的に音声・映像が途切れてしまいました。大変申し訳ありません。

ネット いやいやいや機材トラブルって、間違っただけじゃん？

テレビ 戻ったー。よしよしよし、俺、復活のお知らせ。

常務 お、戻った。新発見。叩いたらスマホも治る。
それでは、無事復旧いたしましたので会見を続けさせていただきます。

部長、副社長と入れ替わり三人の真ん中に。

部長 弊社部長の御免でございます。それでは一昨日に発生いたしました、弊社従業員複数名が関与する不適切事案につきまして、ご報告させていただきます。

記者たち、ボールペンでメモをする形で待ち構えている。

テレビ
ラジオ
ネット
複数名が関与！
不適切事案！

いいね、パワーワードきたね！

部長 弊社製造部に所属する従業員A、ならびにB、C、D、Fの5名が、一昨日の午後七時から午後九時十分頃にかけて、博多区内の居酒屋において会食をしていたと、匿名の自肅警察からの通報がございました。

記者たち、一斉に手元のメモにペンを走らせる。

部長

これを受け、昨日、社内で結成した調査委員会が、当該の五名にヒアリングを行いました。結果うち一名は中央区のうどん居酒屋で一人で二次会を行い生ビール一杯と肉ゴボ天うどんを喫食。他の一名も博多区内の、いわゆる夜の町に所在する「接待を伴う飲食店」に立ち寄り、源氏名コロネちゃん二十歳を指名。1セット六十分に延長三回の九十分、実に同店閉店時刻までの二時間三十分の間、同店に滞在いたしましたことが判明いたしました。

記者、手元のメモに内容を書きなぐる。

部長

社内では「やむを得ない場合でも会食は五名未満で行うこと」という通達をしている中、また県知事からも会食や飲み会などは2時間以内とし、二次会を控えるよう県民への要請も出ている中、このような事態を引き起こしましたことを、大変遺憾に感じる次第でございます。ひとえにこれは私の製造部の部長としての管理不行き届きであり、責任を痛感しております。今後につきましては、従業員への教育を徹底するとともに、個人所有のスマートフォンの位置情報取得して常時監視下に置き、五名以上が二時間以上集まることのないよう、また、四名以下であったも二次会等への立ち寄りなどの無いよう、美しい会社を目指して、再発防止に向けた管理を強化してまいります。

記者、一層激しく殴り書き。

部長

この度は、まことに申し訳ございませんでした！

副社長・常務・部長、一斉に頭を下げる。

常務

それでは、質疑応答に移ります。幹事社の新日本テレビ様、よろしくお願ひします。

テレビ

はい、幹事社の新日本テレビです。よろしくお願ひします。発言者の方は挙手の上、指名されましたら、まず社名、次に質問の順でお願ひします。それではまず弊社から。えー、社内で会食は五名未満でという通達がある中、その五名はなぜ会食を行ったのか、また、その会食の目的が何だったかをお聞かせください。

部長 えー、五名未満なので、五名までならOKだと思ったとのことですが。
テレビ はい？ ちよつとなにをおっしゃってるのかよく理解できないんですが。

部長 会社から「やむをえず会食を行う場合は五名未満にすること」と言われていたので、五名でやったと申しております。

テレビ えーと、その五名の方は日本語の「未満」の意味が今一つわかっていないお馬鹿さんという理解でよろしいでしょうか。

部長 大変遺憾ですが、その通りでございます。

テレビ 会食の目的は？

部長 従業員Aの誕生日祝いと聞いております。

テレビ それではもう一つ。二名が二次会をおこなったということですが、こちらも理由をお聞かせください。

部長 えー、一名は「おまかせ」一次会で炭水化物がでなかったもので、どうしてもべに麵類を食べずにはいられなかった」もう一名は「コロネちゃんから、バースデープレゼントを準備してるから会いたいとLINEが来たから」と申しております。わかりました。ありがとうございます。では次に大日本ラジオさん。

テレビ 大日本ラジオです。よろしくお願ひします。えー、一次会の内容について詳しくお伺ひします。まず、乾杯はどのように行われたのでしょうか。

部長 えー、ほぼ全員が通風持ちのため、下戸の一名がウーロン茶、他の四名はハイボールで乾杯いたしました。

ラジオ 乾杯の際、グラスとグラスを接触させることはあったのでしょうか？

部長 えー、申し訳ありません。確認できておりません。

ラジオ 料理の内容はどのようなものだったのでしょうか？

部長 つきだしの小鉢に、サラダ、刺身、焼き鳥、卵料理、メインの鍋に、デザート一品の七品。これに120分の飲み放題がついた一般的な居酒屋のコースでございます。

ラジオ 料理は大皿で提供されたのでしょうか。

部長 申し訳ありません、把握できておりません。

ラジオ 大皿からのとりわけが発生した可能性がある、ということですよね。

部長 把握できておりませんが、その可能性は否定できないと考えております。

ラジオ 刺身と焼き鳥の種類は？

部長 把握できておりません。

常務 (口をはさんで) ええと、それは必要な情報でしょうか？

ラジオ うち、音声だけなんです。リスナーの方にリアルに想像してもらうには、細かい情報が必要なんです。どうなんでしょうか。鯛、マグロ、サーモン、イカ、寒八の五点盛りに鶏皮、豚バラ、四つ身、砂ずり、つくねの五本というような感じでしょうか？

部長 確認はできておりませんが、概ねそのような内容だと考えられます。

ラジオ 鳥皮はタレでしょうか、塩でしょうか。

部長 わかりかねますが、私は塩派です。

ラジオ (大きく) なんですって!?

部長 (気圧されて) も、申し訳ありません!

記者R、メモを取る手に力がこもる。

ラジオ まさかつくねも四つ身も塩だとかいいませんか?

部長 すみません、私は塩です!

ラジオ 信じられない。あなたはあれですか。なんでも塩で食べれば通っぽいと思ってる

人ですか。抹茶塩とか藻塩とかヒマラヤ岩塩とかトリュフ塩とかパラパラかけて、
うーん素材の味が生きてるーとかのたまう派閥ですか!

部長、厳しい追及の連続にフラフラ。

テレビ あの、すみません、大日本さん、そろそろよろしいでしょうか?

ラジオ ああ、すみません。以上です。

テレビ 他に質問はありますか?

ネット ヤッホーニュースです。よろしいでしょうか?

テレビ (嫌そう) 手短に、お願いします。

ネット 質問です。先ほど「製造部に所属する従業員A、ならびにB、C、D、Fの5名」

とおっしゃいましたが、Eが飛んでいるのは何故でしょうか?

テレビ え、その質問必要?

ネット 何か隠しているんじゃないですか?

部長 えー、Eは、もとからおりません。会食に参加したのは、A B C D F、秋山、

馬場、蝶野、デビアス、藤波の五名です。

テレビ あ、イニシャルね。

部長 なお、従業員のプライバシーと個人情報保護のため、実名での報道はご遠慮く
ださいますようお願い申し上げます。

ネット わかりました。でも、他にも何か隠していることがあるんじゃないですか?

部長 ええ、ございました。源氏名コロナちゃん二十歳は、調査の結果、本名山田ピン
子三十歳既婚と判明いたしました。

ネット よし、タイトル決まった。「不謹慎、あの企業がひた隠す居酒屋クラスター 男
だらけの濃厚接触120分一本勝負 ぬかるみの二次会と夜の町のW不倫お持ち
帰り愛」これやる。バズるやる。

え、なんですか?

ネット 「不謹慎、あの企業がひた隠す居酒屋クラスター 男だらけの濃厚接触」

部長 いえ、クラスターは発生してませんが。

ネット は?

部長 あと、男だらけではありません。馬場と蝶野は女性従業員です。

ネット え?

部長 お持ち帰れてもおりませんし、秋山は独身です。W不倫になりようがありません。
ネット いやいやいや、駄目でしょ、盛ろうよ。バズってバズってバズる感じに。

部長 あ の、シンプルに申し上げますと、弊社の従業員五名が誕生日祝いに居酒屋で二時間以上飲食して、そのうち二名が二次会に行きました。まことに申し訳ありませんでした！

副社長・常務・部長、大真面目に頭を下げる。

テレビ え、それだけですか、重大発表って。クラスターになったんじゃないの？

部長 五名とも、今日も元気に働いております。

ラジオ 駄目でしょ、そんなの。ニュースにならないよ。

ネット 隠してる、絶対なんか隠してる！

記者たち色めき立って騒然とする。

先生、常務に「GO」のサイン。

常務 えー、ご静粛に願います。ご静粛に。弊社常務の尾詫でございます。ただいまより、先ほど判明いたしました、当社製品の不具合につきまして、ご報告をさせていただきます。

テレビ きた！

ラジオ 製品の不具合。

ネット 大量回収の予感！

記者たち、ボールペンでメモをする形で待ち構えている。

常務 弊社で製造いたしました、新型コロナウイルス対策グッズ「ソーシャル君」と「除菌ちゃん」の二商品につきまして予期せぬ製造上の不具合があり、令和2年4月以降の出荷分の一部に、当初期待された効果が出ないケースがあると判明いたしました。

部長、「ソーシャル君」を2本持ってきて、常務に渡す。

それは男と女が持っている1mのウレタン棒と同じものである。

常務 こちらの「ソーシャル君」でございます。ソーシャル君は特殊ウレタンフォーム製の1mの棒で、こちらを持ち歩くことで、他人との距離を最低1m、相手も「ソーシャル君」を持つていれば必ず2m以上のソーシャルディスプレイを、意識しなくても確保できるという画期的なグッズでございます。大変柔らかいウレタン製の特許素材を使用しておりますので、人や物にぶつかった場合でも、相手に怪我をさせたり、傷つけたりする心配がございません。それでいて柔らかすぎず、折れたりへたったりしないよう、芯棒の部分に当社オリジナルの特許技術が使用されております。こちらが手に持たずに頭に装着できる「ソーシャル君ハット」。

部長、ソーシャル君ハットを持ってくる。
副社長が見本として、ソーシャル君ハットを装着。

常務

このほかにも腰に装着する「ソーシャル君スカート」、二倍の距離がとれる「ソーシャル君ダブル」を含め、これまでにシリーズ累計二十万セットほどを製造・出荷いたしております。こちらの製品は、気温による膨張・縮小を考慮して、気温25度の標準環境下で1メートル3ミリ以上、バナナが釘で打てる温度でおなじみのマイナス40度の虐待環境でも1m以上を維持できるよう設計されており、しかもながら、先ほど申し上げました通り、令和2年4月以降の出荷分の一部に1m未満の商品が含まれることが判明いたしました。また「除菌ちゃん」につきましても、保管状況により、有効成分が揮発してしまうことがあり、十分な除菌・殺菌の効果が得られない場合があります。ことが判明いたしましたため、この度、二商品の自主回収をさせていただきます。お客様、並びに関係者の皆様には、大変なご迷惑・御心配をおかけいたしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。

常務の発表の間に部長が「除菌ちゃん」を持ってくる。

それは男・女が今まで消毒に使っていたものと同じものである。

記者たち、大きくざわめく。

常務

この度は、まことに申し訳ございませんでした！

副社長・常務・部長、一斉に頭を下げる。

副社長、常務、部長、頭を上げる。

常務

それでは、質疑応答に…

と、その言葉が終わるのを待たずに質問が殺到する。

テレビ# 新日本テレビです！

ラジオ# 大日本ラジオです！

ネット# ヤッホーニュースです！

記者T、勢いに任せて「ビデオの開始」をタップ。

テレビ ちよつと、ルール守ってよ、質問は幹事社から！

ラジオ だったら素早く手短かにお願いしますよ！ 三つも四つも聞いたりせずには

テレビ さつき刺身と焼き鳥の内容まで聞いてたオタクが手短かにとか言います？

ネット もう、どうでもいいから早くしてよ。

ラジオ じゃあ、一社1回につき質問1つまででどうです？

テレビ 大日本さん、さっき一社で何個質問しましたっけ？
ネット エーと、ヤッホーニュースです。

テレビ ドサクサに紛れて割り込むなよ！ 分かった、分かりました。一社につき質問一つ。それでいいよ。

ラジオ 素早く。

ネット 手短に。

テレビ わかりましたって！

記者たち、対抗心むき出しで、窓から身を乗り出す勢い。

記者たち、ボールペンやタッチペンでメモをバンバンと叩きながら…

テレビ えー、新日本テレビです。本来1m以上あるべきものが、1m未満だったということは、実際にはソーシャルディスタンスがとれていなかったということで、最悪の場合、健康被害にもつながり得る重大な問題だと考えますが、どのようにお考えかお聞かせください。

常務 はい、大変重大な問題であると考えております。まずは早急に自主回収の告知を行うことで、万が一の事態をまねくことのないようにと考えております。

ラジオ 大日本ラジオです。そもそも1m未満になってしまった原因はどのあたりにあるのでしょうか。お聞かせください。

常務 販売が好調だったため、4月から新しい協力工場を一所追加いたしましたことが原因でございます。

ネット 詳しくお願いします。

常務 中国・湖北省の協力工場の品質管理上の問題でございます。

テレビ 品質管理上とはどのような問題だったのでしょうか？

常務 発注側と受注側で、仕様書の理解に差があったことでございます。もっと具体的にお願いします。

常務 正規の仕様は1メートル3ミリ、製造上の誤差の許容範囲は0.30%未満でございますいましたが、実際には0.30%未満ではなく0.3%以下で製造してしまつたということです。この結果、誤差の許容範囲ギリギリで生産された製品は長さが1mに対し0.1ミリ弱不足したものとなっております。

ネット 未満と以下の区別もつかないんですか！

常務 仕様書を翻訳する際に、取り違えたものと考えられます。

テレビ 取り違えて、場合によっては命に関わる問題ですよ！

常務 申し訳ありません。

ラジオ 消費者の信頼を裏切る行為だとは思いませんか！

常務 申し訳ありません。

ネット そんな軽い言葉で済ませるつもりですか！

常務 誠に申し訳ありません。

記者たちの言葉は質問というよりは糾弾のようになっていく。

記者たち、質問が終わるごとにボールペンを投げつけ始める。

テレビ
ラジオ
ネット
常務
テレビ
ラジオ
ネット
常務
テレビ
ラジオ
ネット
常務

そもそも1m3ミリという設計そのものに問題があったのでは？
何故もう少し余裕を持った設計にできなかったんですか！
誤差の設定もギリギリすぎたのでは？
結果的にはそうだったかもしれない。
結果的に、それくらいのこと想像できなかったんですか！
想像力の欠如が招いた事故では？
あらゆるケースをあらかじめ想定すべきだったのでは？
申し訳ございません。

そもそも製造後の検品で発見できなかったのは何故ですか！
出荷前に検品はしていないんですか！
全体的にあまりにも杜撰なように思えますが！
申し訳ございません！

記者からの質問が「後知恵バイアス」で溢れる。

テレビ
ラジオ
ネット

委託先の選定に問題は？
他にも工場はあったのでは？
最終決定者は誰ですか！

先生、副社長に交代のサインを出す。

副社長、常務と場所を交代。
副社長がソーシャル君ハットをかぶったままなので、常務と部長は1m外側に押し出される。

先生、副社長にソーシャル君ハットをとるようにサインを出す、副社長は緊張のあまりそれに気づかない。

副社長
ご静粛に、ご静粛にお願いします！

間。

テレビ
ラジオ
ネット
テレビ
ラジオ
ネット
テレビ
ラジオ
ネット

なんだ、そんなもんかぶったまま！
馬鹿にしてんのか！
不謹慎でしょ！
そんなんだからこんなことになるんだよ！
馬鹿なんですか。
馬鹿なんでしょ！
早く謝れよ、ギガがなくなりそうなんだよ！
こっちも充電残り2%なんだよ！

ラジオ いい映像ないとバズらないんだよ！
テレビ 詫びる！
ラジオ 謝れ！
ネット 謝罪しろ！
テレビ 頭を丸めろ！
ラジオ 外出歩くな！
ネット 死んじまえ！

音楽。

副社長、慌ててソーシャル君ハットを外すが、時すでに遅し。
記者たちの罵詈雑言。

それと共に容赦なく暴力的にぶつけられる大量のボールペン。
それに追われるように、副社長以外の人々は姿を消す。

副社長、机の上のタブレットを掴み、テーブルの下をくぐって舞台中央へ。
タブレットを自分の前方に設置して…

副社長 (強く、大きく) この度は！

その勢いに押されて、記者たちの声が静まる。

副社長 この度は、この度は…まことに…まことに…まことに…申し訳ございませんでした！

副社長、見事な土下座。

テレビ 土下座して詫びれば済むとでも思ってたのか！
ラジオ 我々が受けた精神的な苦痛をどうしてくれる！、
ネット 謝罪と補償を要求する！

記者たち、再びエスカレートした罵詈雑言の嵐。

副社長 結局…。結局あなたたちは。…謝ってほしいんですか、それとも誰かを謝らせた
いただけですか。どっちなんですか！

壁面に「終了」ボタンが映写される。

副社長、タブレットに手を伸ばし

「終了」「全員に対してミーティングを終了」をタップ。
急ブレーキの音。

記者たちのウィンドウが強制的に閉じられる。
壁にはZoomのホーム画面が表示される。

疲れ果てた様子で、床に座り込む副社長。

静寂の中、スマホの着信音が鳴る。

副社長、スマホを取り出し画面をしばし複雑な表情で見つめ、応答。

副社長　もしもし。

社長　(呑気な声で)もしもしー、副社長、おつかれさーん。

副社長　社長：いったい今まで何してたんですか。

社長　ごめんごめん、ちよつと出かけてたら、携帯の充電切れちゃってさ。もう会見終わった？

副社長　：はい、終わったというか、強制終了したというか。

社長　あ、そう。無理やり終わらせなきゃいけないくらい盛り上がったんだ。よかったねー。

副社長　盛り上がったというのは、ちよつと違うかもしれませんが。

社長　反応、どうだった。

副社長　反応？　散々です。

社長　え、嘘！　ダメだったの？　自信作だったのになあ。

副社長　自信作？

社長　あれ、付箋、見てないの？

副社長　副社長の机のどこ、貼つといたんだけど。

社長　いえ…。見てないです。

社長　あら、剥がれてどっか紛れちゃったのかな。ごめんごめん。あれだよ、ソーシャルディスタンス君ハット折り畳みタイプ。

副社長　…。

社長　新製品発表のお知らせとかじゃメディアの人たち全然集まってくれないからさ。こないだネットで見つけた記事参考にして、「重大な発表」って感じでちよつと盛ってみたんだけど。

副社長　(ボソリと)：そんなどこの馬の骨が書いたか分からないような記事を…。

社長　結局、どこが来てくれたの？

副社長　新日本テレビ、大日本ラジオ、あと、ネットです。ヤッホーニュース。

社長　え、すごいじゃない。やっぱり盛ってみるもんだね。新聞社さんは？

副社長　いいえ。紙は：紙媒体は来ませんでした。いつまで待ってみても。

社長　あらそう。まあでもいつもみたいに新聞の地方欄に義理でベタ記事載せてもらうより全然いいよ。あのさ、次はほら、いま流行ってるクラウドなんとかでさ。

副社長　クラウドファンディングですか？

社長　そうそう、そのクラウドなんかで開発資金集めて、新製品作ってみようと思うんだよ。抗菌&UVカット型ソーシャルディスタンス君ハットダブル折り畳み…

副社長、電話を切る。

副社長、床に座り込んだまま。

と、そこに地下鉄の扉が閉まる警告音が響く。

プロレスマスク姿の乗客たちが、一斉にドアからなだれ込んでくる。

それぞれの手には傘のようにソーシャルディスタンス君が携えられている。

一気に「密」な状態になる車内。

電車の扉が閉まる音。

モーター音が段階的に切り替わり、加速していく車輛。

と、誰から始まったかわからないざわめきが車両内に広がっていく。

乗客A (常務) え、どうして。
乗客B (部長) マスク。
乗客C (先生) なんて。
乗客D (テレビ) 今時？
乗客F (ラジオ) うわあ。
乗客G (ネット) ヤバイ人発見。
乗客H (男) してないよね。
乗客I (女) してないね。
乗客A (常務) え、どうして。
乗客B (部長) マスク。
乗客C (先生) なんて。
乗客D (テレビ) 今時？
乗客F (ラジオ) うわあ。
乗客G (ネット) ヤバイ人発見。
乗客H (男) してないよね。
乗客I (女) してないね。
乗客A (常務) え、どうして。
乗客B (部長) マスク。
乗客C (先生) なんて。
乗客D (テレビ) 今時？
乗客F (ラジオ) うわあ。
乗客G (ネット) ヤバイ人発見。
乗客H (男) してないよね。
乗客I (女) してないね。
乗客A (常務) 非常識。
乗客B (部長) KY。
乗客C (先生) 低能。
乗客D (テレビ) 最悪。
乗客F (ラジオ) 暴走中年。
乗客G (ネット) 無音カメラで撮影！
乗客H (男) ダメだよね。
乗客I (女) ヤバイね。

副社長、チラチラと投げかけられる視線や逸らされる視線に、そのざわめきの原因が自分であると気づく。

副社長、いつの間にかマスクを失くしてしまっている。

副社長、慌てて周囲やポケットなどを探るが、マスクは見つからない。

密だった車内に、じわじわと副社長の周りにだけ、ソーシャルディスタンスが形成されていく。

と、副社長、くしゃみを催す。

副社長、肘で口元を覆って、必死に我慢する。

ざわめき、大きくなる。

乗客A (常務) ちよつとちよつと。

乗客B (部長) 勘弁してよ。

乗客C (先生) (あからさまに逃げる) すみません。通ります

乗客D (テレビ) え、マジで。

乗客F (ラジオ) えーうわー。

乗客G (ネット) よしこい！ ドーンとこい！ バズるやつこい！

乗客H (男) あっちいこう。

乗客I (女) うん。

副社長、我慢しきれずに…

副社長 (副社長) ハックション！ ゲホッ、ゲホッ、ゴホッ！

副社長、激しく咳き込む。

そのしぶきを浴びる乗客I。

全員の視線があからさまに集中。

乗客 (副社長以外) 謝れ！

音楽。

副社長、匿名の乗客たちの格好の標的、生贄の羊と化す。

羽交い絞めにされ、チョップやパンチ、凶器(ソーシャル君)など、各種プ

ロレス技を代わる代わる浴びる副社長。

プロレス技が一巡すると、次は体中に次々とレッテルを貼られていく。

攻撃している以外の乗客は、その様子をせっせつとスマホに収め、拡散。

「陽性」「夜の町」「コーラス」「劇場」「キヤバクラ」「接待を伴う」「飲食店」

「イベント」「音楽」「武汉」「三密」「若者」「専門家」「政府」「知事」「ジム」

「バー」「スナック」「クラブ」「センザンコウ」「蝙蝠」「演劇」「サンモール」

副社長、反論したくてもマスクがないため喋ることができない。

逃げ惑う副社長。

舞台には乗客Hと乗客I、それを撮影している乗客Gだけが残される

乗客I 謝って！

乗客H そうだ謝れよ！

壁に非常連絡装置のボタンが浮かび上がる。

副社長 どうして…。あの…なんで私が謝らなきゃいけないんでしょうか！

周囲から「謝れ」「謝罪しろ」と声が響く。

副社長、そのボタンに手を伸ばし、押す。

急ブレーキの音。

転倒し、床に転がる副社長。

乗客G・H・I、急ブレーキの反動で吹き飛ばされるように姿を消す。

副社長

結局…。結局あなたたちは…。謝ってほしいんですか、それとも誰でもいいから、何でもいから、誰かを謝らせたいだけですか。どっちなんですか！

音楽。

と、一斉にスマートフォンとボールペンが降り注ぎ、舞台を埋めつくす。

暗転。

(シーン3終了)

薄暗がりの中、ぼんやりと部屋の中の様子が窺える。
舞台には一本の長机。

長机の向こうに、副社長一人の姿。

その背後にはスマホやペン、手帳を手にしたペストマスク姿の一群。
静寂。

副社長、意を決したように口を開く。

副社長

この度は、まことに申し訳：

と、副社長、謝罪の言葉を中断し、後ろを振り返る。

副社長

(促すように) ほら。

と、ゆっくりと舞台が回転し始める。

舞台が半周し、副社長は客席を振り返っているような位置になる。

副社長

ほら、謝って。(向き直って) …この度は、まことに申し訳ありませんでした！

副社長、腰を折り謝罪。

音楽。

ペストマスクの一群、向かい合い、頭を下げたり、下げられたりを繰り返す。
舞台、再び回転し始める。

謝る側と謝られる側がそのたびに明確に逆転し続ける。
やがて、暗転

(幕)

脚本執筆に際し下記の文献を参考にしました。

- ・ はじめての男の謝罪マニュアル (男の謝罪研究会・著 秀和システム・刊)
- ・ 謝罪の作法 (増沢隆太・著 デイスクヴァー・トゥエンティワン・刊)